

平成 20 年度 普及に移す農業技術（第 2 回）

[分 類] 普及技術

[成果名] 移植水稻の初中期除草剤としてバッチリ 1 キロ粒剤は有効である

[要 約] 水稻初中期除草剤としてバッチリ 1 キロ粒剤を田植直後～ノビエ 2.5 葉期までに処理することで水田 1 年生雑草全般に防除効果がある。

[担 当] 農事試験場作物部、農業技術課専門技術員

[部 会] 作物部会

1 背景・ねらい

単一成分でノビエ及び広葉一年生雑草ともに効果のある成分ピラクロニルを含有する初中期除草剤の除草効果を検討する。

2 成果の内容・特徴

(1) 水稻初中期除草剤としてバッチリ 1 キロ粒剤を田植直後～ノビエ 2.5 葉期までに処理することで薬害なく、水田 1 年生雑草全般に防除効果がある。

農薬登録内容

バッチリ 1 キロ粒剤

[一般名及び有効成分名] ピラクロニル 5 % イマズスルフロン 2.25% プロモブチド 22.5% 含有

[人畜毒性] 普通物 [魚毒性] A 類

[適用登録]

(平成21年1月28日 JPPネット確認)

作物名	適用雑草名	使用方法	適応土壌	使用時期	10a当たり 使用量	本剤の使用 回数	ピラクロニル を含む農薬の総使 用回数	イマズスルフ ロンを含む農薬の総 使用回数	プロブチドを含む 農薬の総使用回数
移植水稻	水田1年生雑草および マツバイ、ホタルイ、 ウリカワ、セリ	湛水散布	砂壤土～粘土	移植直後～ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで	1kg/10a	1回	2回以内	2回以内	2回以内

3 利用上の留意点

(1) プロモブチドを含むので、スルホニルウレア系除草剤抵抗性草種に対応できる。

(2) 田植え同時散布機を利用した田植え同時処理が可能である。

(3) その他使用上の留意事項は、防除基準の他の初中期剤を参照する。

4 対象範囲

県下全域

5 具体的データ

(1) 平成 20 年度 農事試験場の成績

田植え後 0 日～ノビエ 2.5 葉期処理において残草は見られず高い雑草防除効果が認められ(表 1)、薬害はなかった(表 1、2)。

表1 雑草防除効果

(平成20年、農事試験場、田植え後40日調査、無処理区対比%、(内)㎡当たり風乾重g)

試験区名	処理時期	処理量/10a	ルイ	ホタルイ	コキ	ミソハコハ	ミズハコハ	アテナ	(タコキ)	(イカ)	合計
バッチリ 1 キロ粒剤	田植え後0日	1kg	0	t	0	0	0	t	0	t	t
バッチリ 1 キロ粒剤	ノビエ2.5葉期	1kg	t	5	0	t	0	0	0	0	t
比)トップガンLフロアブル	田植え後15日	500ml	0	0	0	t	0	0	0	0	t
エリジャン乳剤 + マメット S M 1 キロ粒剤	田植え後0日 + 25日	300ml + 1kg	0	9	0	0	0	0	0	0	t
無 処 理			100 (0.68)	100 (0.44)	100 (0.02)	100 (15.56)	100 (0.02)	100 (0.02)	100 (1.44)	100 (0.08)	100 (16.74)

注 1) ノビエ2.5葉期は田植え後13日、マメット S M は田植え後25日処理、合計からタコキ、イカは対象外のため除外してある。

注 2) 試験場所：須坂市八重森、標高 3 4 0 m、中粗粒グライ土・壤土、減水深 0.5cm / 日、あきたこまち、中苗、3本植、耕起4月25日、代かき5月17日、移植日5月21日、tはtrace：痕跡を示す。

表2 場内における水稻の生育

(平成20年、農事試験場)

試験区名		薬害		7月29日		出穂期	成熟期			成熟期	籾重	同左無
		程度	症状	草丈 cm	茎数 /m ²	月・日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 /m ²	月・日	kg/a	処理比 %
バッチリ1キロ粒剤	田植後0日	なし	-	75	650	7.31	98	20.3	501	9.12	69.4	103
バッチリ1キロ粒剤	ノビエ2.5葉期	なし	-	72	649	7.31	95	20.0	511	9.12	67.8	101
トップガンLフロアブル	田植後5日	なし	-	74	634	7.31	96	20.0	475	9.12	64.7	96
エリジャン乳剤+マメットSM1キロ粒剤		極微	生育抑制	73	610	7.31	94	19.6	505	9.12	67.3	100
無処理				73	668	7.31	93	20.1	452	9.11	62.7	93

(2) 平成20年度 現地試験の成績

コナギについては対照薬剤に比べ発生が多く、また、ホタルイは対照区ともにやや残草した。田面露出があったことに起因する。他の雑草種については対象薬剤と同等またな同等以上の効果が得られ(表3)、薬害は認められなかった(表4)

表3 現地における雑草防除効果

()内雑草本数

(平成20年、長野普及セ)

試験区	ノビエ		コナギ		ホタルイ		アゼナ		タウコギ		合計	
	風乾重 g	同左比 率%	風乾重 g	同左比 率%	風乾重 g	同左比 率%	風乾重 g	同左比 率%	風乾重 g	同左 比	風乾重 g	同左 比
(試) バッチリ1キロ粒剤 (田植え同時・1kg/10a)	0.24 (8)	17	0.96 (24)	120	1.36 (44)	64	0		0		2.56	13
(対) ユートピア1キロ粒剤 (田植え同時・1kg/10a)	3.32 (12)	237	0		2.40 (20)	113	0		0		5.72	26
無処理	1.40 (20)	100	0.80 (24)	100	2.12 (20)	100	6.88 (268)	100	8.60 (24)	100	19.80	100

注) 試験場所: 飯縄町、標高500m、土質・土性: 灰色低地土・壤土、減水深: 2.0cm/日、品種: コシヒカリ、中苗機械移植、耕起: 5月11日、入水: 5月12日、代かき: 5月18日、移植日: 5月28日、処理時の水深: 4cm、面積: 30a・1区制

表4 現地における水稻の生育

(平成20年、長野普及セ)

供試薬剤	薬害		最高分げつ期 (7月1日)		出穂期	成熟期 (9月8日)		
	程度	症状	草丈 cm	茎数 /m ²	月日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 /m ²
(試) バッチリ1キロ粒剤	無	-	50	588	8.12	92	17.5	411
(対) ユートピア1キロ粒剤	無	-	48	529	8.12	91	18.1	355
無処理			52	468	8.12	92	15.9	324

7 特記事項

[公開]

制限なし

[課題名、研究期間、予算区分]

普通作物の新規農薬等の効果・評価試験、平成20年度、民間受託
県植物防疫協会委託試験(普及展示ほ)、平成20年度、その他